

ALPS処理水の海洋放出に係る関連産業の状況調査結果について（9月29日現在）

9/25～9/29の期間に産業団体等から聞き取り

(1) 既に生じている影響

○ 中国等へ向けた輸出停止による影響

(水産物連絡協議会)

- ・ 一部漁協で水揚げ制限を実施
- ・ 中国向けに輸出していたマダラ、キンキ、カレイなどが、価格・流通量ともに下落
- ・ 冷凍倉庫の使用状況が100%に近いところが多く、秋サケ漁の本格化に伴い10月中旬に満杯になるところも発生
- ・ ホタテの輸出先国の新規開拓を模索しているが、コストに見合わない安値を提示されるなど、価格交渉が進んでいない。
- ・ 中国向け水産物を他国向けに切り替えているものの、中国向けと同等の価格・数量の維持ができない
- ・ 本州の冷凍倉庫が満杯で、道内の一部地域にも荷物が流入
- ・ 韓国、香港、台湾への輸出も減少傾向

(商工関連団体)

- ・ 渡島地区では、中国からの未通関・返品商品を受け入れるため、複数の倉庫に分散して在庫する対応に至ったケースがあった。
- ・ ホタテ原貝では、輸出中止や水揚げ削減による市場取扱高の減少及び価格の下落。

(食品関係団体)

- ・ 中国向けの製品をヨーロッパ方面に切り替えることは、HACCPの関係で手が出しにくい。

(2) 今後懸念すること

○ 中国の水産物輸入全面停止による影響

(水産物連絡協議会)

- ・ ホタテの仕入れと売価の差損の補填や国の買取などの早急な対策を要望

(商工関連団体)

- ・ これから最盛期を迎える秋サケやマダラ、カレイ類、甲殻類等、また、年末に向けて出荷が増加する貝ホタテなど、中国向けの品物が国内向けに流れ込むことによる価格の下落

(食品関係団体)

- ・ 道は、国内需要拡大の「食べて応援！北海道キャンペーン」を実施しているが、同時に水産加工業者へ売価下落に係る利益補填対策を講じなければ、赤字が増加してしまう。
- ・ 東電への賠償請求等の書類作成は難しいことも多く、賠償金を受け取るまでに時間を要することとなるが、支援体制の構築がされていないため、スムーズな請求が行えない。

(3) 海外(中国)の状況(北海道上海事務所からの情報)

- ・ SNS等での処理水に関する発信は減少している。
- ・ 国慶節(中国の建国記念日:10月1日)ギフト用としての道産米の注文控えやキャンセルが多い。
- ・ 日本産食品取扱い事業者では、9月の売上が前年同月の20%程度まで下落。ただし、以前からの取引先からは継続的な注文あり。
- ・ 日本産冷凍水産品コーナーの一部商品が、中国産品へ置き換えられている。(上海市内のスーパーマーケット)